

(写)

3 消安第 5786 号
令和 4 年 2 月 1 日

都道府県水産主務部長 殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長
水産庁増殖推進部栽培養殖課長

アコヤガイの大量へい死に関する当面の対応について（注意喚起）

令和元年の夏季以降、アコヤガイの養殖場で高水温期に大量へい死が確認されており、令和元年 8 月から国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所（以下「水研」という。）がアコヤガイの養殖が行われている関係県等と協力し、原因究明に取り組んできたところです。

令和 2 年に感染症の可能性を示唆する結果が得られたところですが、今般、水研が実施した実験の結果、大量へい死の原因と考えられるウイルスがビルナウイルス科に属する新種のウイルスであると特定されました。

一方で、当該ウイルスの増殖要因や病原性の強さなど、引き続き解明すべき点は多く、かつ、複合的な要因がへい死率を増加させていると推測されております。

このため、「アコヤガイの大量へい死に関する当面の対応について（注意喚起）」（令和 2 年 11 月 10 日付け 2 消安第 3539 号農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長及び水産庁増殖推進部栽培養殖課長通知）に基づき、貴管下のアコヤガイ養殖業者に対して適切に御助言、御指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

(別添)

2 消安第 3539 号

令和 2 年 11 月 10 日

都道府県水産主務部長 殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長
水産庁増殖推進部栽培養殖課長

アコヤガイの大量へい死に関する当面の対応について（注意喚起）

昨年の夏季以降、アコヤガイの養殖場で高水温期に大量へい死が確認されており、昨年 8 月から国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所（以下「水研」という。）がアコヤガイの養殖が行われている関係県等と協力し、原因究明に取り組んできたところです。

今般、水研が実施した異常貝を使用した感染試験の結果、感染症の可能性を示唆する結果が得られました。しかしながら、原因生物や病原性の強さ等不明な点が多く、また、急激な環境変化や餌不足等、複合的な要因でのへい死も考えられるとの報告がありました。

へい死の原因が特定されるまでの間にも対応をとることが望ましく、また感染症が関与していた場合であっても、複合的な要因がへい死率を増加させると推測されることから、アコヤガイ養殖業者がとるべき当面の対応について、水研と協議の上、以下のとおり取りまとめましたので、御承知いただき、貴管下のアコヤガイ養殖業者に対して適切に御助言、御指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、愛媛県からは、本日、別添のとおり、県下の関係者からなる「愛媛県アコヤガイへい死対策協議会」における協議の概要が公表されたことを申し添えます。

記

1 アコヤガイの適切な養殖管理

生産県で作成されている海洋環境に適応した適正養殖管理マニュアル等に従った養殖を引き続き行うこと。

特に高水温、餌不足等の環境下で弱った貝の死亡率が高いことから、過密養殖を避け、水温等の環境情報の収集を行うなど適切な養殖管理を行うこと。また、同じ環境下でも、成貝よりも稚貝（生後2、3か月）で死亡率が高いことから、稚貝の健康状態は特に注意し、適切な養殖管理を行うこと。

2 アコヤガイの漁場間の移動時の注意

稚貝のへい死、外套膜萎縮症状等が例年よりも多く確認された漁場から、避寒等のためにやむを得ずアコヤガイを移動させる際には、感染症の可能性を示唆する結果が得られたことから、貝の健康状態に十分注意し、病原体の拡散を極力防止するよう努めること。

3 海外からのアコヤガイ導入に伴う注意

海外から種苗又は種苗生産に供するアコヤガイを導入する場合は、過去注意喚起しているとおり、「水産防疫対策要綱」（平成28年7月1日付け28消安第1412号農林水産省消費・安全局長通知）等に基づき、導入元の管理状況の確認を徹底するとともに、既飼育貝と一定期間隔離、区別して飼育を行うこと。